

申請日: 令和7年10月8日

①学校名:	東北芸術工科大学 大学院(私立)		②所在地:	山形県山形市上桜田三丁目4-5	
③課程名:	芸術工学研究科デザイン工学専攻クリエイティブ・イノベーター・コース				
④正規課程／ 履修証明プログラム:	正規課程(修士)	⑤定員:	3名	⑥期間:	2年
⑦責任者:	芸術工学研究科長 深井総一郎		⑧開設年月日:	令和8年4月1日	
⑨申請する課程 の目的・概要:	本課程は、地域産業や社会課題の現場で即戦力となる高度専門人材を育成することを目的とする。大学院デザイン工学専攻は、創造的発想力と工学的実践力を統合した学際的教育を展開し、デザインを核とした課題解決型学修を推進している。95%の教員が現役の実務家である強みを活かし、産学官連携によるフィールドワークや企業課題解決型プロジェクトを通じ、現場で求められる知識・技術を体系的に修得する。山形県や山形市をはじめとする自治体、地域産業、文化機関との強固なネットワークを基盤に、プロトタイピングから社会実装まで一貫した実践機会を提供することで、持続可能な地域社会の形成に寄与するとともに、新たな価値創造を担うデザイン人材を輩出することを目指す。				
⑩10テーマへの 該当	1 女性活躍	3 中小企業活性化	5 環境保全	7 医療介護	9 起業 ○
	2 地方創生	4 DX	6 就労支援	8 ビジネス等	10 防災危機管理
⑪履修資格:	①学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者および2026年3月までに卒業見込みの者 ②学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者および2026年3月までに授与される見込みの者 ③外国において、学校教育における16年の課程を修了した者および2026年3月までに修了見込みの者 ④外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者および2026年3月までに修了見込みの者 ⑤我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者および2026年3月までに修了見込みの者 ⑥専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であること、その他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者および2026年3月までに修了見込みの者 ⑦文部科学大臣の指定した者 ⑧本大学院において、個別の資格審査により大学を卒業した者と同等の学力があると認められた者				
⑫対象とする職業の種類:	製品開発やサービス企画等のデザイン業務に携わる企画・開発担当者、企業や自治体において地域振興や産業支援を行う職員、コミュニティデザインや空間設計、UX/UI設計、プランディング等に従事する者、またはデザイン分野での実務経験を有し、プロジェクトマネジメントや新規事業創出、起業を目指す者を対象とする				
⑬身に付けること のできる能力:	(身に付けられる知識、技術、技能) - デザイン理論、工学的知識、UX/UI設計、ブランド構築に関する知識 - ユーザー分析やフィールドリサーチ等による課題発見・分析の技術 - 製品・サービス開発における設計・試作(プロトタイピング)技能 - 地域企業・自治体と連携した共創型プロジェクトのマネジメント技術 - ビジネスマネジメント構築や事業計画立案など新規事業創出に関する知識・技能  (得られる能力) - 社会や企業のニーズを的確に把握し、課題を抽出する課題発見力 - 多様な関係者と協働し解決策を導く統合的デザイン思考力 - 製品・サービスの企画から開発・実装までを主導するプロジェクト推進力 - 地域企業・自治体・文化機関との連携による価値創造力・共創力 - 新規事業立ち上げや起業に必要なビジネスデザイン力・事業化能力				

<p>⑭教育課程:</p>	<p>本課程は、基礎的理論の学修と実践的演習を体系的に組み合わせ、課題発見から社会実装に至るプロセスを一貫して担うための教育課程を編成している。</p> <p><b>1. 基礎的知識の修得</b>      「デザイン工学原論1・2」や「デザイン発想論」「エンジニアリング概論」「イノベーションデザイン論」「イノベーションマネジメント論」等により、デザイン理論、ユーザー行動やイノベーションに関する基礎的な知識を修得する。</p> <p><b>2. 応用・展開型の学修</b>      「ユーザー中心設計プロジェクト」「ビジネスモデルキャンパス演習」「デザインプロトタイピング」「プロジェクト技術開発演習」等により、制作や検証実験を通して、課題解決を実装可能な形に展開する力を養う。</p> <p><b>3. 地域・社会と接続する実践</b>      「フィールドワーク演習」「起業シミュレーションプロジェクト」等を通じて、地域や企業と連携した調査・プロジェクトを行い、社会的文脈での実践力を培う。</p> <p><b>4. 能力の涵養</b>      上記の学修過程を通じて、高度な課題解決力・共創力・プロジェクト推進力を実践的に修得する。特に演習・プロジェクト等の実践型授業方法を重視している。</p>									
<p>⑮修了要件(修了授業時数等):</p>	<p>本課程の修了要件は、30単位以上の修得および修士研究(または修了制作)に関する修了審査の合格とする。修了審査においては、履修した実践的演習科目や企業連携プロジェクト科目等を通じて得られた成果をまとめた成果物(論文・制作物・事業提案書等)の提出および口頭発表を課す。評価に際しては、以下の観点を重視する。審査体制は、学内教員に加え、外部有識者、企業・自治体等の実務担当者を含む委員構成とし、教育課程の社会的妥当性を担保。ここでいう社会的妥当性とは、地域や産業界の人材育成ニーズとの整合性、実務現場との接続性、成果の社会的活用可能性、外部有識者による多面的評価を通じて確保されるものとする。</p>									
<p>⑯修了時に付与される学位・資格等:</p>	<p>修士(デザイン工学)</p>									
<p>⑰総授業時数:</p>	79 単位	<p>⑯要件該当授業時数:</p>	79	単位	<p>⑰要件該当授業時数 ／総授業時数:</p>	100 %				
<p>⑲該当要件</p>	企業等 ○ 双方向 ○ 実務家 ○ 実地 ○				<p>本課程では、講義科目はレポート、プレゼンテーション等により知識の理解度を評価し、演習・実習科目はプロジェクト計画、制作過程、成果物の完成度などを総合的に評価する。特に特別研究&lt;科目&gt;では、TCAP事業提案審査を実施し、外部実務家や企業担当者のフィードバックを取り入れることで、実践的能力や社会実装力を多面的に評価する。最終的には、成果物(論文・制作物・事業提案書等)および口頭発表を対象としたTCAP事業提案修了審査を行い、学内教員と外部有識者を含む審査委員会が総合的に到達度を判定する。</p>					
<p>㉑自己点検・評価の方法:</p>	<p>本課程の自己点検・評価は、学校教育法第109条第1項および「東北芸術工科大学自己点検・評価に関する規程」に基づき実施する。年度ごとに自己点検・評価委員会を開催し、教育課程や学修成果を含む事業活動を点検・評価する。結果は学長会等で審議した上で大学ホームページに公表し、教育改善に反映する。また、学生や学外関係者(企業・自治体等)の意見も取り入れた内部質保証を強化し、社会的妥当性を踏まえた教育運営を推進している</p>									
<p>㉒修了者の状況に係る効果検証の方</p> <p>法:</p>	<p>本課程の修了者に対する効果検証は、IR(Institutional Research)推進室を中心に実施する。修了生を対象とした学修成果アンケートや就職先企業アンケートにより、修得した知識・技能の活用状況や社会での実践力を把握するとともに、キャリアパスの追跡調査を行う。また、地域企業や自治体等との地学連携懇話会を通じて、修了生の活躍状況に関する外部評価を収集し、教育課程や指導内容の改善に反映させている。</p>									
<p>㉓企業等の意見を取り入れる仕組み:</p>	<p>(教育課程の編成)      本課程では、山形県工業技術センター、仙台市、東北芸術工科大学後援会企業等と連携し、地学連携懇話会や産学官協議会を通じて地域産業界の意見を把握し教育課程に反映している。さらに、京都芸術大学、山形大学、産業界アドバイザー等を交えた外部評価委員会を開催し、教育課程の編成に関する客観的評価と改善の助言を受けている。</p>									
<p>㉔社会人が受講しやすい工夫:</p>	<p>(自己点検・評価)      本課程の自己点検・評価は、学校教育法および学内規程に基づき自己点検・評価委員会を中心に実施している。加えて、京都芸術大学、山形大学の教員、産業界アドバイザー等を交えた外部評価委員会や、地学連携懇話会を通じて学外関係者の意見を把握し、点検結果に反映している。これにより、教育課程や運営改善に客観的な視点を取り入れる仕組みを整備している。</p>									
<p>㉕ホームページ:</p>	<p>本課程では、社会人が学びやすい環境を整備している。授業は週末集中開講や夜間開講を組み合わせ、勤務と両立しやすいスケジュールを設定している。また、対面授業とオンライン授業を併用したハイブリッド形式を採用し、遠隔地からの受講も可能としている。さらに、授業資料や課題はオンラインで共有し、学修時間を柔軟に確保できる体制を構築している。      加えて、TCAP事業提案審査を通じて、企業との連携課題を学修内容に反映し、実務に直結する成果を重視している。社会人学生には個別の学修相談や履修サポートも行い、キャリア形成を見据えた支援体制を整えている。</p>									
	<p><a href="https://www.tuad.ac.jp/graduateschool/">https://www.tuad.ac.jp/graduateschool/</a></p>									